

マイクロプラスチック調査結果の概要（令和3～6年度）

1 調査時期

年2回

9月（図中「夏」と表記）

1月または2月（図中「冬」と表記）

2 調査地点

① 鶴見川・亀甲橋（左岸・中間・右岸3点）

② 帷子川・横浜新道下（中間1点）

③ 境川水系柏尾川・吉倉橋（中間1点）

3 調査方法

「河川・湖沼マイクロプラスチック調査ガイドライン」
（2023年3月、環境省）に準じた方法

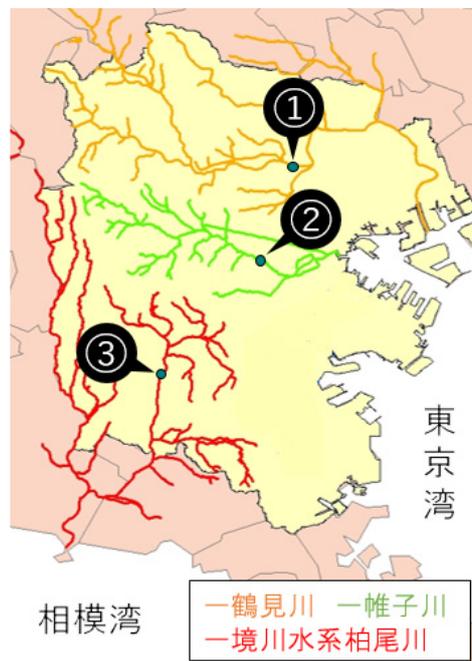


図1 調査地点

4 調査結果

(1) 個数密度について

- ・ 亀甲橋は、横浜新道下及び吉倉橋と比べて、大きい傾向にある。（図2）
- ・ 横浜新道下及び吉倉橋は、個数密度と調査日前10日間降雨量との間に相関がみられる。（図3）

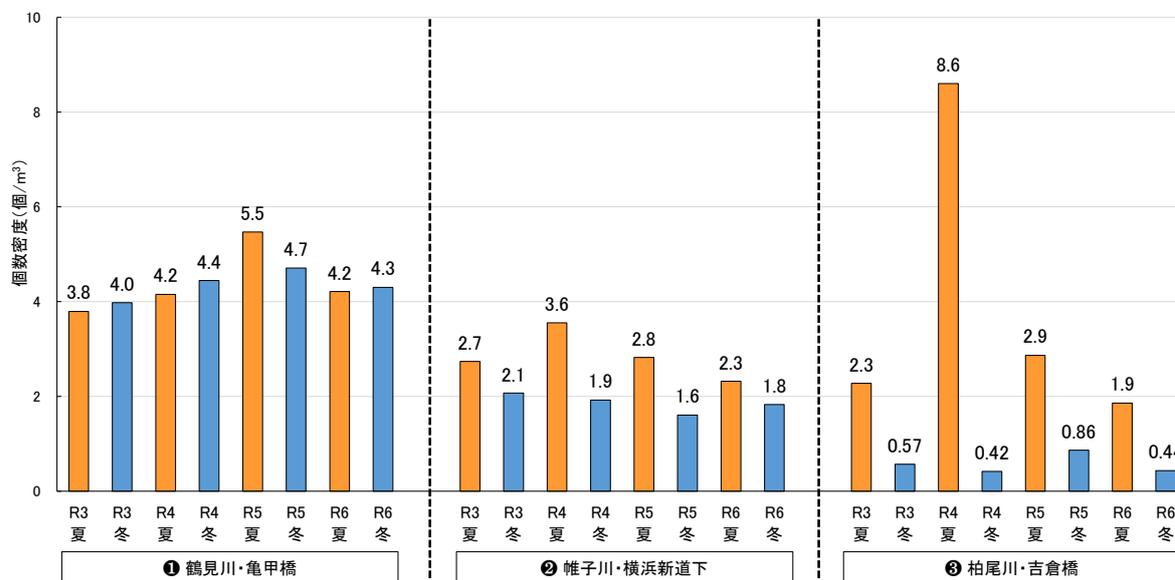


図2 個数密度

（注）① 鶴見川・亀甲橋は、R3 から左岸・中間・右岸3点の平均をグラフ化

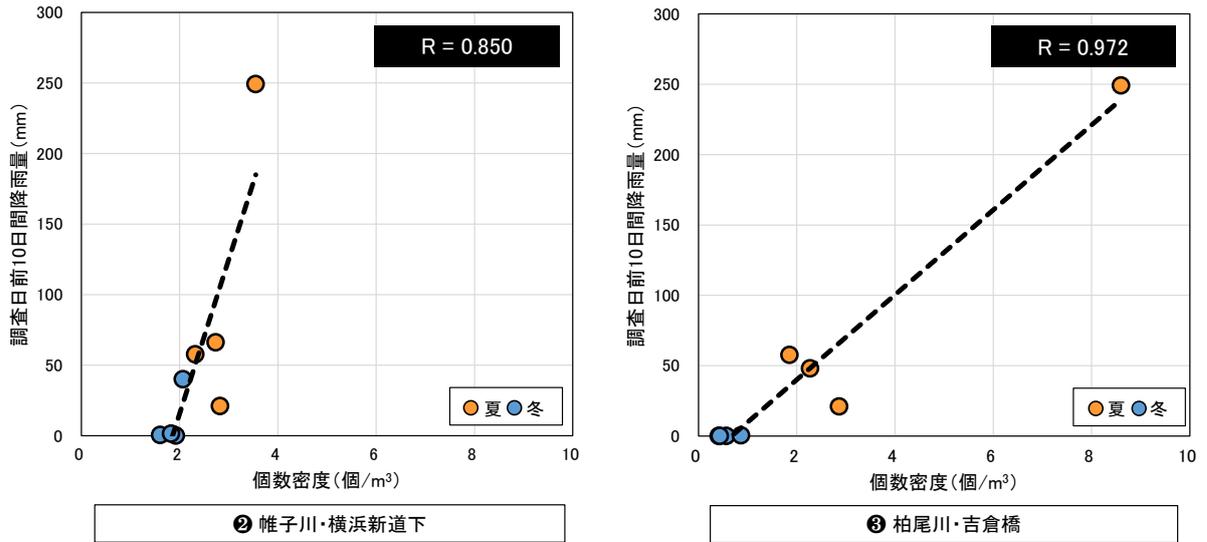


図3 個数密度と調査日前10日間降雨量の関係（2021～2024年度）

(2) 形状と材質について

- 採取されたマイクロプラスチックについて、形状は「破片」「膜・シート状」「ビーズ」「発砲」「球・円柱」「繊維状」、材質は「ポリエチレン」「ポリプロピレン」「ポリスチレン」「その他プラスチック」にそれぞれ分類して集計した。（図4,5）
- 形状は、すべての調査地点において、「破片」と「膜・シート状」で全体のうち7割以上を占めている。（図4）
- 材質は、すべての調査地点において、ポリエチレン、ポリプロピレン、ポリスチレンで全体のうち8割以上を占めている。「その他プラスチック」の内訳は、ポリエチレンテレフタレート、ポリアミド（ナイロン）、ポリメタクリル酸メチル等のアクリル樹脂類などである。（図5）

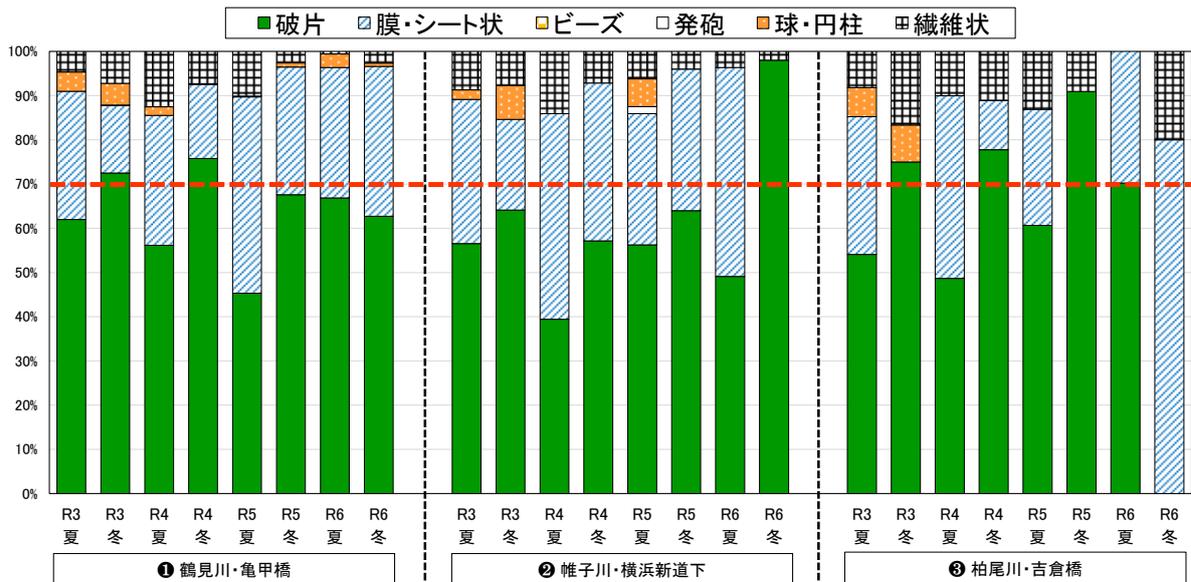


図4 形状別の割合

(注) ①鶴見川・亀甲橋は、R3 から左岸・中間・右岸3点の平均をグラフ化

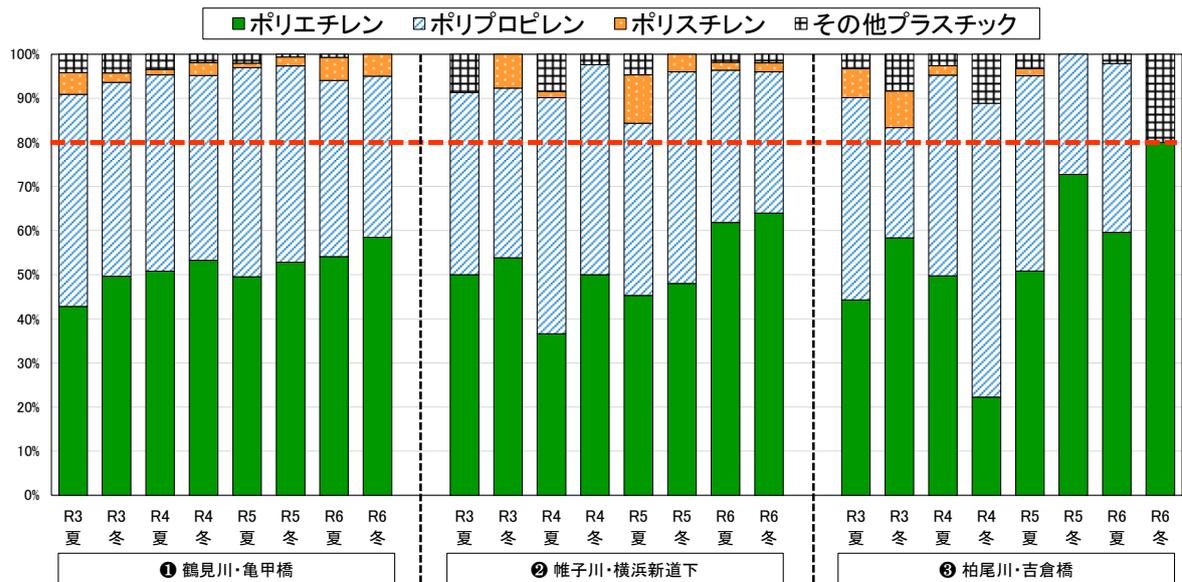


図5 材質別の割合

(注) ①鶴見川・亀甲橋は、R3 から左岸・中間・右岸3点の平均をグラフ化

(3) 元のプラスチック製品の推定について

- 採取されたマイクロプラスチックについて、元のプラスチック製品を推定し、「人工芝」「発砲スチロール」「ポリスチレン粒子」「ペレット」「不明」に分類して集計した。(図6)
- すべての調査地点において、5割以上が「不明」である。(図6)
- すべての調査地点において、「人工芝」及び「ポリスチレン粒子」と推定したマイクロプラスチックが採取されている。(図6)

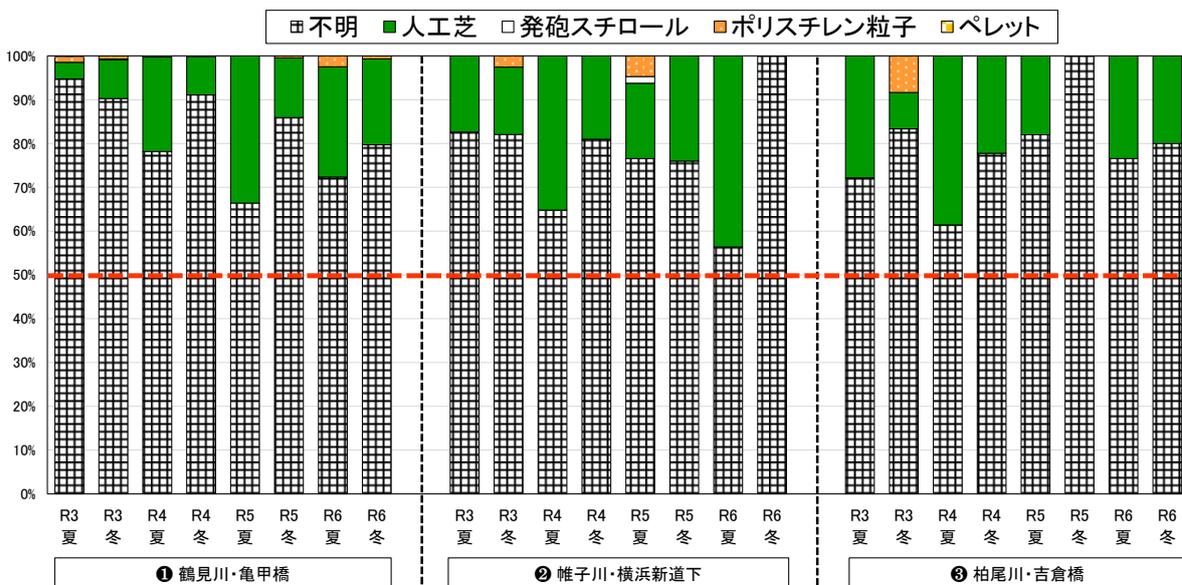


図6 元のプラスチック製品の推定別の割合

(注) ①鶴見川・亀甲橋は、R3 から左岸・中間・右岸3点の平均をグラフ化